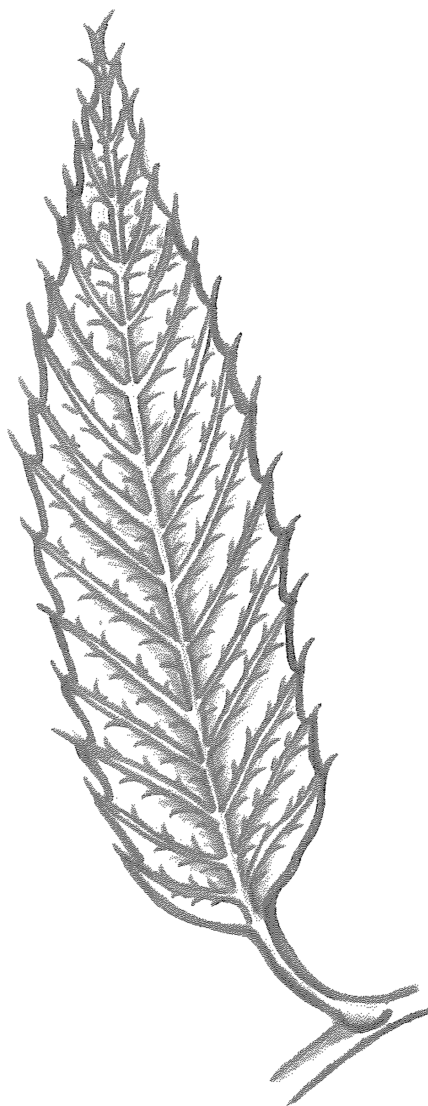
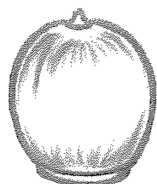
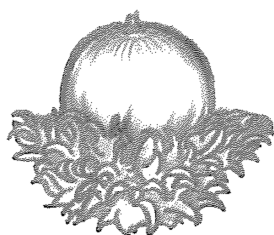


### 3 【クヌギ】 櫟

別名：ツルバミ（橡）



落葉 2年成り

昔から、炭やまき、椎茸栽培（シイタケさいばい）のほだ木や木材として利用され 役立ってきたことから、「国の木」と呼ばれてきた。クニノキが転じてクヌギとなった。または、「食之木」「栗似木」からなったとも。茶道つかう菊炭が作られる。

ドングリ：殻斗は浅く、かたくて細長いりんぺんにおおわれている。アベマキの実よりも首が細くて短い。

葉：両面につやがあり、ふちには針のように細長いぎざぎざ（鋸齒）がある。クリの葉とよく似ているが、葉の裏側には黄褐色の毛があるが抜けやすい（淡緑色）。鋸齒の先っちょが針状になり、白い。

木：灰褐色。樹皮は厚くてたてにわれる。よく樹液に昆虫が集ってくる（昆虫がいたらクヌギとは思わないでね）。

#### 4 【アベマキ】 精 別名：コルククヌギ（木栓櫟）



落葉 2年成り

疱瘡（ほうそう）が治った痕（あと）のあばたのように樹皮がでこぼこしていることと木材がよく燃えるので薪（まき）として利用されたことで「アバタマキ」から。樹皮はぶあつくて、コルク質がよく発達してあるので、コルク材として利用された。

ドングリ：殻斗はクヌギと比べて、ぶあつくて深い。クヌギのどんぐりより、首が太くて長い。

葉：葉のふちにはぎざぎざ（鋸歯）がある。裏側には星状毛があるので、クヌギに比べて、白っぽい。

木：灰黒色。樹皮はコルク質がよく発達し、指で押すと弾力を感じる。たてにえぐれるように深く割れる。